

○計画期間：平成31年4月～令和6年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和元年度終了時点（令和2年3月31日時点）の中心市街地の概況

平成31年4月の認定基本計画に基づき、『誰もが輝き、「真の豊かさ、あずましさ」を実感できる街 —黒石ならではの魅力を磨くまちづくり—』をコンセプトに、「新たな拠点の創出により価値を高めるまちづくり」、「こみせとともに人と人が共鳴するまちづくり」、「誰もが安心して集い、憩うあずましの空間のあるまちづくり」の3つの基本方針を掲げ、各種事業に取り組んでいる。

計画初年度の令和元年度は、新たな交流拠点整備として、中心市街地の旧大型商業施設（旧大黒デパート）跡地の利活用を図るため「市民サービス施設整備事業」を開始し、令和2年度から十数年来の懸案事項であった既存施設（旧大黒デパート）の解体に着手するほか、市民五十年来の要望であった「市立図書館整備事業」も開始し、令和2年度から設計業務に着手する。また、民間事業となる「中心市街地複合宿泊施設整備事業」も令和2年度に開業となる見込みである。

既存事業として、文化・観光資源である「こみせ通り」を中心とした一体的な景観向上を図るため、前町野添線電線共同溝整備事業（電線類の無電柱化）や街なみ環境整備事業（道路の美装化等）、伝統的建造物群基盤強化事業等を継続実施したほか、街なかで開催される主要なイベント等も官民一体となって開催されている。

認定基本計画に掲載した事業の直接的な効果は、計画期間の後期に現れることを想定しており、現時点において目立った変化は見られないが、目標値の一つである「中心市街地内への新規出店数」は令和元年度の目標を達成しており、中心市街地の賑わい創出と交流人口増加を推進するための下地が作られつつある。

今後も、目標達成を目指して、地域と行政が一体となって引き続き、中心市街地活性化事業に着実に取り組んでいく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（基準日：毎年度12月31日）

（中心市街地 区域）	平成30年度 （計画前年度）	令和元年度 （1年目）	令和2年度 （2年目）	令和3年度 （3年目）	令和4年度 （4年目）	令和5年度 （5年目）
人口	2,120人	2,066人				
人口増減数	△56人	△54人				
自然増減数	△32人	△23人				
社会増減数	△24人	△31人				
転入者数	91人	110人				

2. 令和元年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

当市中心市街地においては、黒石市中心市街地活性化協議会、黒石商工会議所、津軽こみせ株式会社、商店街関係者、行政等が事業連携しながら、官民一体となって中心市街地の活性化に取り組むことができた。

令和元年度の実績を見ると、3つの目標指標のうち「主要イベント入込数」と「歩行者通行量（平日・休日の計）」は基準値に達していない。これは、令和元年度は計画初年度であり、目立った事業効果がまだ発現していないためと捉えているが、観光客や来街者に黒石市を訪れていただくためには、イベント開催の目的や方向性を吟味し取り組み内容に反映するなどし、今以上に関係者が一丸となって、黒石市の魅力向上に継続して取り組む必要がある。

もう一つの指標の「中心市街地内での新規出店数」は3件であり、基準値（年2件、5年間で10件）を超えていることから一定の評価はできる。しかし、中心市街地内には依然として空き店舗が多数あるため、黒石市の補助制度と黒石商工会議所の創業・起業支援制度等を相乗的に活用して、新たな事業者の新規出店機会の創出や出店意欲が向上されるよう、さらにインパクトのある情報発信が必要である。

新規の整備事業としては、黒石市が旧大黒デパート解体や図書館整備に着手することで、今後街なかの印象が大きく好転していくものと考えるが、街なか全体を活性化させることを念頭において、各施設の整備計画についてはアンケートを実施し、広く市民から意見を取り入れ、多くの人々が訪れたい魅力ある施設となることを望む。また、旧大黒デパート解体後は周囲との調和を図りながら黒石市を訪れる方にとって回遊しやすい、訪れたい街並みになるよう協議会としても尽力していきたい。民間事業の「中心市街地複合宿泊施設」は令和2年6月1日に「こみせの宿 ホテル逢春」としてグランドオープンした。中心市街地に宿泊施設ができたことで新たな人の流れが生まれ、また、地元商店会と連携した事業を展開していただくことで、中心市街地の賑わい創出が見込まれる。

また、令和2年6月に黒石駅に隣接する商業施設が閉店する。地域住民の生活や観光客の受け入れの要所である黒石駅前を、今後どのように活性化していくかも大きな課題となった。

昨今、社会的な不安要素が尽きず、将来の展望を見通しづらい情勢となっているが、官民連携をさらに深め、事業者や地元住民等の意見を取り入れ、また、中心市街地活性化事業の結果を調査・分析し、将来的な人口動態の推移を考慮しながら対策を講じて目標が達成されるよう協議会としても尽力していきたい。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ効果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
魅力と活力ある商業環境づくり	新規出店数 (件)	10件 (H25~29の合計値)	15件 (R1~R5の合計値)	3件 (R1)	B	—	①
街なかのにぎわい創出	主要イベント入込数	169,764人 (H29)	183,500人 (R5)	154,562人 (R1)	C	—	③
街なかのにぎわい創出	歩行者通行量(人/日) (平日・休日の計)	3,974人 (H29)	4,300人 (R5)	3,438人 (R1)	C	—	③

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値達成、C：基準値未達成

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

<新規出店数（件）>

初年度は、3件（中心商店街空き店舗対策事業の交付決定件数）の新規出店となり、基準値（2件/年）を超えている。

令和2年度には「中心商店街複合宿泊施設」も開業となる見込みであり、起業・創業支援事業等の事業も一体的に進めることで、目標達成は可能と見込まれる。

<主要イベント入込数>

初年度は、154,562人の入込数となり、基準値より15,202人の減少となり、目標値を下回った。

主な要因としては、認定基本計画に掲載した事業の直接的な効果がまだ現れていないことや、イベント期間中の天候に恵まれなかったことが挙げられるが、街なかで開催される各種イベントの情報発信や人的及び金銭的支援等を継続し、官民一体となってイベントを盛り上げ観光客の誘客に努めることで、目標達成は可能と見込まれる。

<歩行者通行量（人/日）（平日・休日の計）>

初年度は、3,438人の歩行者通行量となり、基準値より536人の減少となり、目標値を下回った。

主な要因としては、認定基本計画に掲載した事業の直接的な効果がまだ現れていないことや、調査

日の天候に恵まれなかったことが挙げられるが、令和2年度には「中心商店街複合宿泊施設」の開業効果、令和3年度以降には「市民サービス施設」及び「市立図書館」の開業効果、「前町野添線電線共同溝整備事業（電線類の無電柱化）」、「街なみ環境整備事業（道路の美装化等）」、「伝統的建造物群基盤強化事業」等の効果が見込めることから、目標達成は可能と見込まれる。

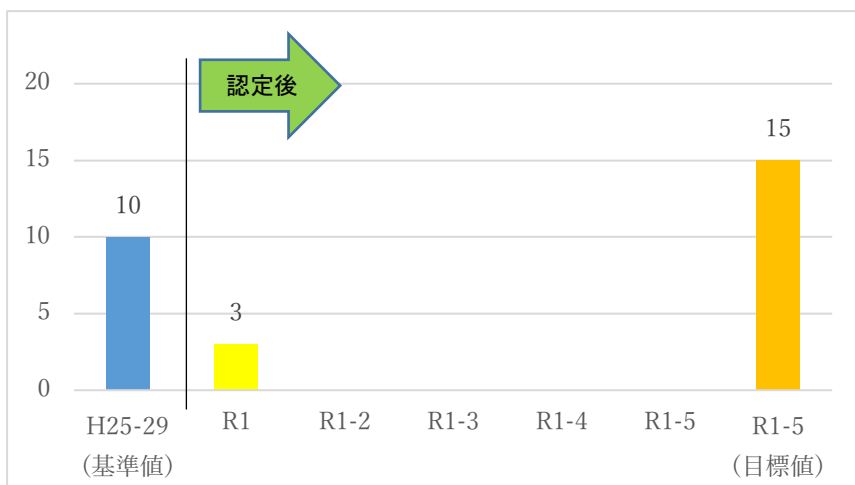
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回のフォローアップは実施していない。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

<新規出店数（件）> ※目標設定の考え方 認定基本計画 P74～P75 参照

●調査結果の推移



年	(件)
H25～H29	10
合計値	(基準年値)
R1	3
R1～2	
R1～3	
R1～4	
R1～5	
R1～R5	15
合計値	(目標値)

※調査方法：黒石市中心商店街空き店舗対策事業補助金の交付決定件数

※調査月：令和2年3月

※調査主体：黒石市

※調査対象：中心市街地内での新規出店

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中心商店街空き店舗対策事業（黒石市）

事業実施期間	平成26年度～【実施中】
事業概要	中心商店街の空き店舗を活用して出店する事業者等に対し、店舗改修費等の補助金を交付するほか、出店後の経営状況等のフォローアップを実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和5年度）
事業効果及び進捗状況	3件の補助金交付決定があり、基本計画に記載の年2件の出店見込みを超えた。
事業の今後について	創業・起業支援事業と併せて継続実施することで新規出店を促し、空き店舗の解消、商店街のにぎわい創出及び活性化につなげる。 計画終了時（R5末）の効果として、計画期間中の総新規出店数を①②③④併せて、15件を見込んでいる。

②. 創業・起業支援事業（黒石市）

事業実施期間	平成30年度～【実施中】
事業概要	相談ルームの開設やセミナーの開催などにより、創業・起業希望者への支援を行う。
国の支援措置名及び	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）

支援期間	(令和元年度～令和5年度)
事業効果及び進捗状況	創業セミナーを5回開催し、相談ルームを24回開催したほか、県内の創業・起業支援情報を周知した。
事業の今後について	中心商店街空き店舗対策事業と併せて継続実施することで創業・起業者をフォローアップし、事業の安定と発展を下支えする。 計画終了時(R5末)の効果として、計画期間中の総新規出店数を①②③④併せて、15件を見込んでいる。

③. 中心市街地複合宿泊施設整備事業(こみせ通り商店街振興組合、逢春株式会社)

事業実施期間	令和元年度
事業概要	横町に宿泊施設、多目的ホール及び、売店等を整備し、市民や観光客が交流・滞在する場を創出する。街なか観光の振興、商店街の賑わいの創出により中心市街地の活性化を図るうえで必要な事業である。
国の支援措置名及び支援期間	商店街活性化・観光消費創出事業(中小企業庁) (令和元年度)
事業効果及び進捗状況	令和元年7月に補助金交付決定を受け、9月から建設工事に着手。10月に屋台村、令和2年2月にまち歩きツアーを開催。多言語ホームページ及びパンフレット作成も作成し、取り組みを着実に実施した。
事業の今後について	宿泊施設の稼働、また情報発信と商店街と連携したソフト事業も継続実施することで、来街者の増加と滞在時間の延伸を図り、こみせ通り及び横町の活性化を推進する。 計画終了時(R5末)の効果として、相乗効果としての新規出店数1件/年のほか、基準年から140人/日の歩行者通行量の増加を見込んでいる。

④. 弘前圏域空き家・空き地バンク連絡事業(不動産団体・金融機関・弘前圏域定住自立圏構成市町村・黒石市)

事業実施期間	平成30年度～令和3年度【実施中】
事業概要	弘前圏域で「空き家・空き地バンク」を運営することで中心市街地内においても空き家・空き地の利活用の促進を図り、活性化につなげる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	りんごまつり期間中に行ったアンケートによると、空き家・空き地バンクの存在を知っていると回答した割合は55%あり、制度についての認知は進んでいるものと考えられる。特に空き家を所有する方に情報が届くようになり取り組みを進めていく。
事業の今後について	継続実施することで、遊休資産の活用機会を促し、居住者及び来街者の増加と新たな人の流れを生み出し、活性化につなげる。 計画終了時(R5末)の効果として、計画期間中の総新規出店数として、①②③④併せて、15件を見込んでいる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

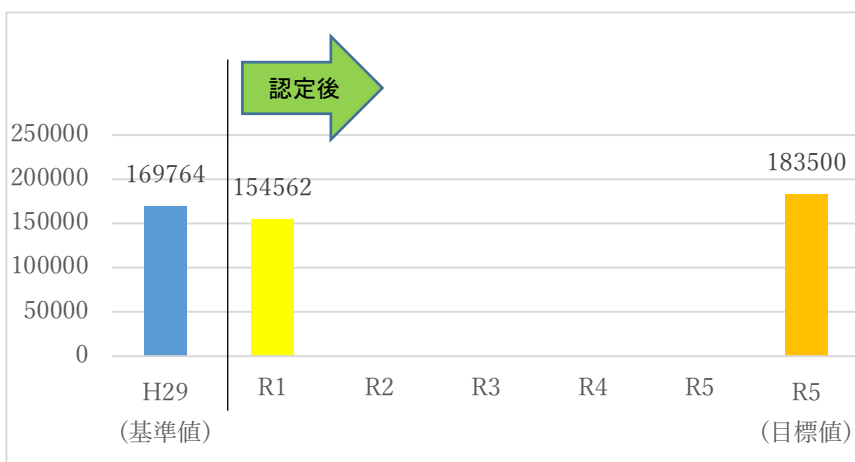
初年度は、3件（中心商店街空き店舗対策事業の交付決定件数）の新規出店となり、基準値（2件/年）を超えていることから、目標値の達成は可能と考えている。

今後も、空き店舗に新規出店を希望する小売業者等に対して、当該事業による補助制度の活用と周知を図るほか、起業・創業支援事業により起業相談や経営相談等を一体的に進め、目標達成に取り組む。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

<主要イベント入込数> ※目標設定の考え方 認定基本計画 P76～P79 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H29	169,764 (基準年値)
R1	154,562
R2	
R3	
R4	
R5	183,500 (目標値)

※調査方法：中心市街地内での主要イベント来場者数を集計

※調査月：令和2年3月

※調査主体：黒石市

※調査対象：黒石よされ、黒石ねぷた祭り、黒石こみせまつり、クラシックカークラブ青森ミーティング in こみせ

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 街なかイベント支援事業（黒石市）

事業実施期間	昭和61年度～【実施中】
事業概要	「黒石よされ、黒石ねぷた祭り、黒石こみせまつり、黒石りんごまつり」等の主催者に対し、その費用の一部を補助するほか、人的支援等を行い、イベント内容を充実させ、にぎわいの創出と交流人口の拡大に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和5年度）
事業効果及び進捗状況	主要イベント（よされ、ねぷた、こみせまつり、りんごまつり）に154,562人の入込数となった。
事業の今後について	継続実施することで、各種イベントの円滑な運営を図る。 計画終了時（R5末）の効果として、基準年から16,976人の入込数の増加を見込んでいる。

②. 街なか情報発信事業（黒石市）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	商店街マップや情報誌、SNS、観光アプリ等で情報を発信し、市民及び観光客の街なかへの関心を高める。また、インバウンド対応のため、無料Wi-Fi設置の促進と、英語圏、主にオーストラリアをターゲットとした誘客を図る。

国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和5年度）
事業効果及び進捗状況	R1年度からオーストラリア出身の国際交流員を任用し、日英表記での投稿、また外国人目線での情報を SNS 等で情報している。 また、「やきそばのまち黒石」として探索地図をリニューアルし、街中への関心と来訪者への満足度を高めた。
事業の今後について	R2年度は、こみせ通りの一部に Wi-Fi を設置し、SNS 投稿に映える写真講座や SNS フォトコンテスト等を実施予定であり、誘客及び交流人口の増加が期待できる。 また、日英での情報発信を更に強化し、インバウンド対応も加速化する。 計画終了時（R5 末）の効果として、来街者の増加を見込んでいる。

③. 黒石よされブラッシュアップ事業（黒石市）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	日本三大流し踊りの一つに数えられる黒石よされへの参加者増と知名度アップのため、浴衣の無料貸し出し・着付け、首都圏等で開催されるイベントへの参加、独自で県外イベントに参加する PR 団体に対し、経費の一部を補助することにより、観光誘客の推進と市内外の交流人口の拡大を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和5年度）
事業効果及び進捗状況	黒石よされの入込数は 60,200 人となった。
事業の今後について	継続実施することで、市外からの観光客誘客拡大を図り、中心市街地のにぎわいの創出及び活性化につなげる。 計画終了時（R5 末）の効果として、基準年から 4,010 人の入込数の増加を見込んでいる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

初年度は、154,562 人の入込数となり、基準値より 15,202 人の減少となり、目標値を下回った。

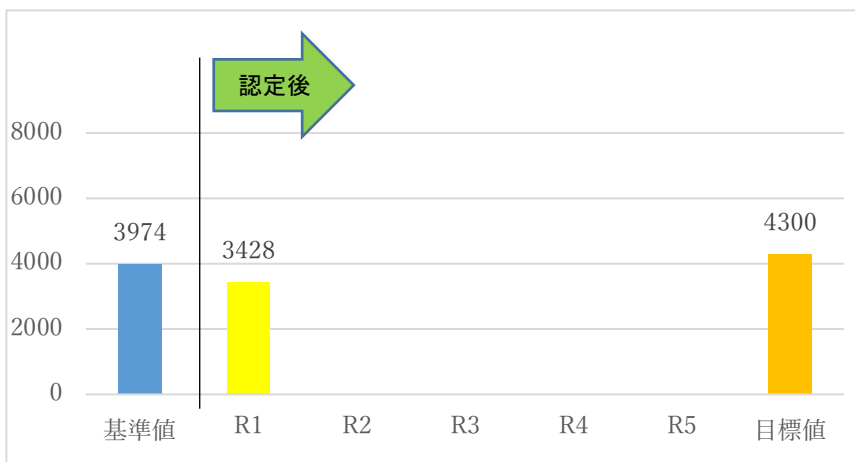
主な要因としては、認定基本計画に掲載した事業の直接的な効果がまだ現れていないことや、黒石よされ流し踊りの期間中、台風接近の影響により雨天であったことが挙げられる。

今後も、街なかで開催される各種イベントの情報発信や人的及び金銭的支援等を継続し、官民一体となってイベントを盛り上げ観光客の誘客に努め、目標達成に取り組む。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

<歩行者通行量（平日・休日の計）> ※目標設定の考え方 認定基本計画 P80～P83 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H29	3,974 (基準年値)
R1	3,428
R2	
R3	
R4	
R5	4,300 (目標値)

※調査方法：9月の平日及び休日（各1日）それぞれ、8時から17時45分まで目視で実測

※調査月：令和元年9月

※調査主体：黒石市、黒石商工会議所

※調査対象：中心市街地内の6調査地点（一番町【駅前】、上町、一番町【信金前】、横町、中町、市ノ町）における歩行者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 市立図書館整備事業（黒石市）

事業実施期間	令和元年度～令和4年度【実施中】
事業概要	黒石公民館駐車場に、新たに市立図書館を建設し、様々な世代の憩いの場として活用する。これまで当市になかった図書館を建設することで、図書館を利用する様々な世代の来街者を増やし、回遊を生み出し、にぎわいの創出に寄与するための事業である。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画（黒石市中心拠点地区））の支援措置を活用予定 (令和2年度～令和4年度)
事業効果及び進捗状況	整備推進懇談会を設置し、ワークショップ、市民説明会等により市民からの意見を踏まえて、基本構想及び基本計画を策定した。
事業の今後について	R2年度に建築設計を実施し、R3年度に新築工事を行い、R4年度オープンを目指す。 計画終了時（R5末）の効果として、基準年から85人/日の歩行者通行量の増加を見込んでいる。

②. 市民サービス施設整備事業（黒石市）

事業実施期間	令和元年度～令和5年度【実施中】
事業概要	旧大黒デパート建物を解体し、市役所窓口業務等を含む市民サービス関連

	機能や交流拠点機能などを含む複合施設、広場を整備し、中心市街地の新たな人の流れを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画(黒石市中心拠点地区))の支援措置を活用予定 (令和2年度～令和5年度)
事業効果及び進捗状況	庁内検討組織(連絡会、作業部会)を設置し、事業構想案をまとめ、市民説明会により市民と事業進捗状況を共有した。
事業の今後について	R2～R3に旧大黒デパートの解体工事を実施し、併せて建築設計も実施。 R4～R5に新築工事を行い、R5のオープンを目指す。 計画終了時(R5末)の効果として、基準年から156人/日の歩行者通行量の増加を見込んでいる。

③. 中心市街地複合宿泊施設整備事業(再掲)(こみせ通り商店街振興組合、逢春株式会社)

事業実施期間	令和元年度
事業概要	横町に宿泊施設、多目的ホール及び、売店等を整備し、市民や観光客が交流・滞在する場を創出する。街なか観光の振興、商店街の賑わいの創出により中心市街地の活性化を図るうえで必要な事業である。
国の支援措置名及び支援期間	商店街活性化・観光消費創出事業(中小企業庁) (令和元年度)
事業効果及び進捗状況	令和元年7月に補助金交付決定を受け、9月から建設工事に着手。10月に屋台村、令和2年2月にまち歩きツアーを開催。多言語ホームページ及びパンフレット作成も作成し、取り組みを着実に実施した。
事業の今後について	宿泊施設の稼働、また情報発信と商店街と連携したソフト事業も継続実施することで、来街者の増加と滞在時間の延伸を図り、こみせ通り及び横町の活性化を推進する。 計画終了時(R5末)の効果として、相乗効果として新規出店数1件/年のほか、基準年から140人/日の歩行者通行量の増加を見込んでいる。

④. 前町野添線電線共同溝整備事業(黒石市、電線管理者)

事業実施期間	平成23年度～令和2年度【実施中】
事業概要	本路線は、「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されている地区内にあり、伝統的な「こみせ」の保存・修景整備とともに、こみせ通りとしての一体的な景観の向上を図る必要のある重要な路線である。当事業は、縦横に張りめぐらされた電線類を地中化することにより、こみせ通りの観光資源としての価値を高めることで、観光客を増やし、にぎわいを創出させるため必要な事業である。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(道路事業) (令和元年度～令和2年度)
事業効果及び進捗状況	電線管理者による工事(管路工事等)を実施した。

況	
事業の今後について	電線管理者による工事の継続実施（通線、切替作業、抜柱工事）により、環境整備（快適な歩行者空間の確保、生活環境の向上、回遊性の向上）を進め、賑わいの創出及び活性化につなげる。 計画終了時（R5 末）の効果として、基準年から④⑤⑥併せて 130 人/日の歩行者通行量の増加を見込んでいる。

⑤. 街なみ環境整備事業（黒石市）

事業実施期間	平成 30 年度～令和 9 年度【実施中】
事業概要	「こみせ」などの伝統的な景観の保全・形成並びに、街なかを回遊できる歩行者ネットワーク構築にあたり、道路の美装化、景観の復元を行うなど、歴史的風致の維持・向上を図る整備が必要である。また、ユニバーサルデザインも取り入れ、魅力ある歩行者空間の確保を図るものである。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（街なみ環境整備事業） （令和 2 年度～令和 5 年度）
事業効果及び進捗状況	道路美装化工事の実実施設計を作成した。
事業の今後について	R2 に道路美装化工事に着手し、R3 以降修景整備や外観修景助成を予定し、環境整備（快適な歩行者空間の確保、生活環境の向上、回遊性の向上）を進め、賑わいの創出及び活性化につなげる。 計画終了時（R5 末）の効果として、基準年から④⑤⑥併せて 130 人/日の歩行者通行量の増加を見込んでいる。

⑥. 松の湯交流館管理運営事業（黒石市）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	重要伝統的建造物群保存地区に存在する松の湯交流館をコミュニティ及び観光・まち歩きの拠点として活用することで、中心市街地の賑わいの創出と交流人口の増加を図るうえで必要な事業である。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和 5 年度）
事業効果及び進捗状況	自主事業を年間 130 回実施し、延べ 6,607 人の参加となった。多種多様な自主事業を展開しており、多くの人が訪れる機会を設けた。
事業の今後について	継続実施することで、観光の拠点、交流の拠点として最新の情報をわかりやすく発信し、多種多様な事業を展開することにより、中心市街地の賑わいの創出及び活性化につなげる。 計画終了時（R5 末）の効果として、基準年から④⑤⑥併せて 130 人/日の歩行者通行量の増加を見込んでいる。

⑦. 回遊バス運行事業（黒石市）

事業実施期間	平成 10 年度～【実施中】
事業概要	回遊バスを継続して運行し、中心市街地への効率的なバス路線の検討・見直しを図る。また、バス停や待合所の多言語化のほか、店舗の前へバス停を設置するなどの取り組みを行い、中心市街地の商業環境の向上、街なか観光の振興、来街者の利便性の向上、街なか居住の促進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	黒石市地域公共交通会議を設置し、黒石市地域経公共交通網形成計画を協議し、計画を策定した。また、再編実施の方向性についても協議した。
事業の今後について	継続実施することで、中心市街地を訪れるための交通環境の維持・向上を図るほか、乗客の利用環境の改善に努め、活性化につなげる。 効果として計画終了時（R5 末）には、44,000 人の乗車となることを見込んでいる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

初年度は、3,438 人の歩行者通行量となり、基準値より 536 人の減少となり、目標値を下回った。

主な要因としては、認定基本計画に掲載した事業の直接的な効果がまだ現れていないことや、調査日の天候に恵まれなかったことが挙げられるが、令和 2 年度には「中心商店街複合宿泊施設」の開業効果、令和 3 年度以降には「市民サービス施設」及び「市立図書館」の開業効果、「前町野添線電線共同溝整備事業（電線類の無電柱化）」、「街なみ環境整備事業（道路の美装化等）」、「伝統的建造物群基盤強化事業」等の効果が見込める。

今後も、街なかの生活空間の価値を高める取り組みを継続し、目標達成に取り組む。